いが，このような国内帰化に類する現象も，「偶発的」として見過ごさずに，注意して記録する必要がある．福島県北部で，産地が移動しつつあるという現象も，不連続分布の北端であるからこそ気づかれる事実であり，環境との関連で継続した注意を払うことが望ましい．ただしニュースの対象となって，「保護対策」などとことさらに人為が加えられることがないように望む．

本報の分布図は，CD–ROM 長野県植物誌資料集テスト版（清水 2002）の外部データ利用機能を用いて作図した．このROMは長野県に限らず，データを与えさえすれば日本の任意の地域について，水平・垂直分布図を容易に作図することができるので，このような植物地理学的研究にきわめて有用である．

福島県の普通植物調査にあたりご協力いただいた皆さん，および今回とくに産地情報をお知らせいただいた猪苗代正憲氏，氏家和夫氏，大橋広好氏，加藤信英氏，佐々木豊氏，佐藤光雄氏，現地調査をして下さった安嶋裕子氏，文献閲覧にご助力いただいた近田文弘氏に感謝する．氏家和夫氏，佐藤光雄氏には標本をいただいたことにつき，重ねて御礼申し上げる．

Disjunct distribution of *Justicia procumbens* (Acanthaceae) in Fukushima Prefecture, northeast Japan is reported. This roadside weed is popular in central and western Japan with its northern limit at Fukushima-Ibaragi-Tochigi boundary region (ca 37°N). And it again appears in northernmost part of Fukushima Prefecture after nearly 80 km of absence.

引用文献

福島県植物誌編纂委員会 1987．福島県植物誌．
加藤信英 1991．金峰山のキツネノマゴと温海海岸のウシオツメクサ．フロラ山形 (47): 13.
金井弘夫 2000．福島県における普通植物の分布．植物研究雑誌 **75**: 47–66
—— 2002．岩手県における普通植物の分布．植物研究雑誌 **77**: 223–242.
宮城植物の会・宮城県植物誌編集委員会 2001．宮城県植物目録 2000.，同会．
笹村祥二 1967．岩手植物雑記．岩手植物の会会報 (4): 14.
清水建美 2002．長野県植物誌資料集 CD–ROM（テスト版）について．植物地理・分類研究 **50** (1): 80.
結城嘉美 1977．幻の植物キツネノマゴが金峰山に．フロラ山形 (33): 21.

（184-■■ 小金井市■■■■■）

新　刊

□清水建美（編）：**日本の帰化植物**　337 pp. ＋160 pl. 2003. ￥14,000. 平凡社．

帰化植物は一頃のセイタカアワダチソウ騒ぎをはじめ，いろいろな意味で話題になり研究する人も多い．図鑑，目録，解説など，多くの刊行物もある．本書は一連の「日本の野生植物」の一冊である．屋久島以北に自生し，中世以降に移住したとみられる植物 901種類の見出しの下に扱う．史前帰化植物は含まず，園芸種の逸出品は除外して，実質1,000を超える植物が言及されている．冒頭28頁にわたる「帰化植物とは」の中の「帰化植物と人間との関わり」では，緑化事業や農林事業や修景美化事業における導入種が，その地域の種多様性を阻害する結果をもたらす多くの事例を紹介しており，参考になる．私も野外調査の際，道端のコマツナギが，本来の自生なのか最近持ち込まれたものなのか，判断に苦しむことがある．まして多人数による視認調査では，区別がつかない．また最近製作された長野県植物誌資料集 CD-ROM を利用した，県内帰化植物の分布変遷図が紹介されている．写真図版はときにアップを交えて一頁5枚程度を配し，鮮明で見やすい．

42頁以降の種の解説は，分類学研究者20名の分担執筆による．帰化植物のようにこれからどんどん種類が増加すると，うっかり同じ名前を与えてしまうということがおこりやすい．本書でもタンポポモドキとかツメクサとか，同名異種の例があるが，見出しとなる植物名としては避けられていて，それぞれ別名として引用されている．われわれは植物を原

則として和名で扱っているが，データベースを作ってゆくとき，この同名異種が大変厄介な問題を起こす．とくに今後多くのデータベースが交流する時代になると，その結果としていつの間にか異なった植物の情報が混ざってしまうおそれがある．カワリミタンポポモドキのところで，神奈川県植物誌でその名が新たにつけられたいきさつが述べられているが，図鑑や植物誌を作る際にはこういう心配のある名前は別名として引用せず，解説文中でその理由を説明して，使わないように勧告したらどうだろうか．カラスノエンドウ，ヒモカズラ，バラモンジンなど，始末がわるくなっている例は少なくない．（金井弘夫）

□豊田武司（編著）：**小笠原植物図譜（増補改訂版）** 522 pp. 2003. ¥9,524. アボック社.

1981年に初版が刊行されて以来，編著者がたえず現地調査を継続して情報を補充し，新たな研究成果を取り込んできた．その間に小笠原の自然についての認識も一層高まり，本書の再版の要望も大きくなった．これを踏まえて図版の追加，訂正，補記などを行った結果，128頁が増えた．植物は固有種124種にそれぞれ一頁を当て，鮮明な写真一枚と説明文より成る．広分布種や帰化種は一頁3種が納められている．340頁以降には小笠原の自然，小笠原の魅力，固有種の保護，資料1小笠原の植物季節，資料2小笠原の植物相と分布，用語解説，参考文献と続く．固有種の多い小笠原植物の研究や理解に有用な文献である．本書のハードカバー版は細身縦長のB5版で厚さ3 cmであり，厚手の上質紙が使われているため，頁を開くのに抵抗があり，使っていると綴じが傷むのではないかと心配である．（金井弘夫）

□日本蘚苔類学会：**コケ類研究の手引き** 124 pp. 2003. 同学会.

学会創立30周年記念の出版物である．1.コケ類の採集，2.標本作製と管理，3.形態観察法，4.図版作製法，5.写真撮影法，6.染色体観察法，7.デンプンゲル電気泳動テクニック，8.分子系統解析法，9.化学分析法，10.コケ類の教材化，11.生態観察法，12.コケに関係した文献，の12章から成る．

コケの採集や標本作りは維管束植物とは少々異なるが，それに用いられる道具や使い方は大いに参考になる．まして3章以下の内容は，既刊の類書に同じ見出しがあるにしても，新しい機材や執筆者自身の工夫が各所に折り込まれていて，他分野の人達にも有用な情報を与えてくれるから，入手しても損はしないだろう．タングステン微細針の作り方などは知らなかった（かなり荒っぽいが）．

本書は非売品で，日本蘚苔類学会員および今後の新入会員には無料配付をするとのことである．だから年会費（3,000円）を払って入会すれば入手できるが，そうしないで入手したければ，下記に問い合わせること．需要が多ければ，非会員価格が設けられるだろう．717-0602 岡山県真庭郡川上村上福田，岡山理科大学自然植物園蒜山分室内，日本蘚苔類学会事務局（TEL/FAX 0867-66-7012）．（金井弘夫）